

令和5年度 新潟市農業活性化研究センター試験成績書

研究課題	秋冬期における一,二年生草花の展示栽培 (エキノプス)
背景・ねらい	新潟市では晩秋から早春にかけて出荷できる切花品目が少ないため, 秋冬期における無加温ハウスで栽培が可能な品目・作型等を検討し, 切花出荷期の拡大を図る.
担当者	海津 朋之, 山口 次郎, 渡邊 一彦
研究期間	2020～(4年目)

1 目的

秋冬期に無加温ハウスで栽培が可能であり, 市場での需要が高い品目を展示栽培し, 当該期に球根以外で種苗費が安く換金可能な草花類の新品目導入のための資料とすることを目的とする. 当該品目は和名でルリタマアザミとも呼ばれ, 花材として一般的である. 管内では栽培例が限られる.

2 方法

(1) 試験場所: 農業活性化研究センター内鉄骨ハウス 4

(2) 供試品種: (2品種)

リトロ<フクカエン>

ブルーグロー<フクカエン>

(3) 試験区の構成・規模

各品種各 80 株 (80 株×1 反復)

(4) 耕種概要

ア 播種: 7月10日

イ 定植: 7月26日

ウ 栽植様式: 畝幅 80 cm, 条間 15 cm, 株間 15 cm, 4 条植え (33,333 株/10 a)

エ 施肥: 基肥 (kg/10 a) N-P₂O₅-K₂O= 15-15-15

追肥 生育の状況を見ながら適宜施用.

オ 電照: 定植から日長延長 (日没後～PM10:00)

カ 摘芯: なし

3 結果の概要

(1) 種子発芽は良好であった.

(2) 試験期間中には茎の伸長がみられず, ロゼット化した.

4 考察とまとめ

秋冬期における無加温ハウスで栽培が可能な品目・作型等を検討し, 切花出荷期の拡大を図ることを目的とし, 本試験ではエキノプスを夏播き作型で栽培した. 結果, 試験期間中には茎の伸長がみられず採花できなかった. 低温感応が必要であることが考えられ, その場合種子冷蔵で改善できる可能性がある. 種子冷蔵をしない場合は, 一般的な栽培方法として1年目を株養成とし2年目以降の採花を目指すことが望ましいことが示唆された.